

単元名 古典との出会い

蓬萊の玉の枝 —「竹取物語」から—
昔話を読もう

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日時 平成 21 年 10 月〇日 (〇)

2 学年・組 第 1 学年〇組

3 指導事項 (単元の目標)

(1) 〇読むこと オ

- ・ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。

(2) 言語事項 (1)ア(ア)

- ・ 文語のきまりを知り、古文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

4 単元名 『蓬萊の玉の枝 —「竹取物語」から—』 (光村図書 『国語 1 』)

5 単元の目標を達成するための言語活動

- ・ 2つの昔話を比べ読みすること。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○ 昔話に興味を持って、楽しみながら文章を読み取るうとしている。	○ 2つの文章の内容を読み取り、比較しながら、当時の人々のものの見方、考え方をとらえている。	○ 歴史的仮名遣いに気をつけながら、古典を音読し、古典には特有のリズムがあることに気づいている。

7 単元について

○ 生徒の状況

- ・ 本校の生徒は、読書活動にはあまり熱心ではないが、お話を聞くことは好きである。これまでも教科書教材の小説や、平和学習で読み聞かせをした絵本などに興味をもってきた。ただ、文章を読み、そこに表れているものの見方や考え方をとらえたり、自分のものの見方、考え方を広げたり深めたりすることは、十分に学習できていない。
- ・ より短い場面での内容のまとめや比較、文言から根拠を引用することは一部の生徒はできるものの、全文を通しての分析や比較についてはほとんどの生徒が経験していない状況である。

○ 教材の価値

- ・ 『竹取物語』、『一寸法師』は生徒が初めて出会う古典文学であるが、「かぐや姫」の物語として知っている生徒も多く、親しみやすく、興味を持ちやすい教材である。さらに、『竹取物語』は、音読を繰り返すことで、古典特有のリズムも味わいやすい。

生徒に親しみやすい2つの昔話の比較によって、当時の人々のものの見方、考え方をとらえやすい教材である。

○ 指導の工夫

- ・ 読む意欲を喚起するために、生徒が知っているお話を提示する。
- ・ 『一寸法師』は比較しやすいように冒頭部分のみを、現代語訳で提示する。
- ・ 意見交流しやすいように、付箋紙を活用し、ワークシートにまとめさせる。
- ・ 読み取ったことについて、違う視点に気付かせ、考えを広げたり、深めたりできるように、グループ内での話し合い活動や学級全体での交流を取り入れる。

8 単元の学習と評価の計画

次	時数	学 習 活 動 (評価方法)
1	1	『蓬莱の玉の枝』を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。(暗誦テスト)
2	4	『蓬莱の玉の枝』を読み取り、あらすじや展開を理解する。(ノート, ワークシート)
3	2	『蓬莱の玉の枝』と『一寸法師』とを比べ読みし、当時の人々の生活やものの見方、考え方をとらえる。その後、昔と今とを比べ、自分のものの見方や考え方を広げる。 本時 1 / 2 (ワークシート)

*準備物 付箋紙, ワークシート, 『一寸法師』現代語訳

9 本時の目標

- 2つの昔話を比べ読みし、共通点や相違点を見つけることで、当時の人々のものの見方、考え方をとらえる。

10 本時の目標を達成するための言語活動

- ・ 2つの昔話を比べ読みし、共通点と相違点とを見つけること。

11 本時の学習展開

過程	学 習 活 動	指導上の工夫・留意点	評価・評価方法
確 認 意欲付け	1 昔話のおもしろさについて自由に意見を出し合う。(『蓬莱の玉の枝』の復習もかねて)	○ 「蓬莱の玉の枝」を思い出すことで、学習活動への意欲を引き出す。 ・ 「一番印象に残った話は何だっただろう。」	
展 開	2 学習方法を確認する。 (1) 今日の学習の目標を聞く。		
	2つの文章を比べ読みし、当時の人々のものの見方、考え方をとらえよう。		
	(2) 2つの文章を比べ読みする。 ① 一寸法師の現代語訳を通読する。(教師範読)		

	<p>② 個人で比べ読みする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋紙に共通点、相違点を記入する。 <p>③ グループで比べ読みする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋紙をワークシートに貼りながら、意見を出し合う。 <p>(3) グループで出た意見を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通点を交流する。 相違点を交流する。 	<p>C: 書きあぐねている生徒には、比べる観点を1つ2つ示す。(机間指導)</p> <p>○ グループでできるだけたくさん気づきを出させる。</p> <p>○ 見つけた個数の少ないグループから発表させる。</p>	<p>読</p> <p>A: 2つの文章の共通点・相違点を見つけ、当時のものの見方や考え方について、今までの知識と関連づけてとらえている。</p> <p>B: 2つの文章の共通点・相違点を見つけ、当時のものの見方や考え方をとらえている。(ワークシート、発言)</p>
日常化 一般化	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 他グループの発表ですごいと思ったことや印象に残った意見、比べ読みをしてみたの感想を発表する。</p> <hr/> <p>5 次回の授業の連絡を聞く。</p> <p>(1) 今回の学習をもとに昔と今との比較を通して、学ぶことを伝える。</p>	<p>○ 学習して感じたことや分かったことを発表させる。</p>	

予想される共通点・相違点

共通点

- おじいさん・おばあさんは(年を取っても)子どもがいなかった。
- 子どもを欲しがっていた。
- 普通よりもずっと小さい子が生まれた。(発見した)
- 子どもを授かり、とても喜んだ。

相違点

- 「竹取物語」は竹の中から子どもを見つけたが、「一寸法師」はおばあさんが産み落とししている。
- 「竹取物語」の子どもは3寸だが、「一寸法師」は1寸である。
- 「竹取物語」は3か月で一人前に成長したが、「一寸法師」は12歳になっても小さいまま。
- 「竹取物語」は最後まで親に愛されるが、「一寸法師」は親に邪魔者扱いされる。
- 「一寸法師」は家出する。